

令和4年度「市長と語り合う会」について（真砂地区）

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和5年 2月20日（月）	真砂公民館	19:00～20:00	10	4	14

- 市側出席者
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

2 会の概要

- 開 会（秘書課長）
 - ・ 会の趣旨説明
 - ・ 出席者紹介
- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

1. 令和4年度施政方針「危機を機会に転じる積極思考」

・脱炭素社会の実現に向けた取組

地球温暖化は、二酸化炭素の排出量が増えたことにより、地球の温度が年々上がっていることが原因とされている。世界的に、産業革命頃の水準から気温の上昇を1.5度以内に抑えることを目標として進められている。日本においても、二酸化炭素等の排出量を減らす脱炭素社会に向けた動きが強まっており、二酸化炭素の排出量と吸収量をゼロにするカーボンニュートラルの取り組みが進められている。

市においても、これまで、屋根に太陽光発電装置を設置したり、市の施設の照明をLEDに変える等取り組んできた。今年度は、共用車として電気自動車を一台導入する事としている。

・行政サービスの効率化・最適化を図る「デジタル・トランスフォーメーション」

100年に1回とも言われるコロナウイルス感染拡大によりいろいろと影響があったが、コロナを克服する一つ的手段として、インターネットを使い、離れた場所でも人と人が話したり、会議を行ったりするようになった。行政においても、デジタル技術を使い市民サービスの向上を図ったり、行政手続きを効率化することが進められている。現在、市では、市役所の窓口において、亡くなられた方のご家族の手続き等を1カ所で済ませることが出来るサービスを行うこととし、庁舎の改修も行うこととしている。

・益田市型中高一貫教育の実現に向けた取組

これまでも、小学校に入る前の保育所、幼稚園の段階から小学校、中学校にわたり、益田に愛着をもって、将来も益田市で活躍してくれるようふるさと教育を重点的に進めてきた。

その中でも、中学校から高校までの6年間を一貫した形で行い、郷土への愛着とともに、学力の向上にも繋げていきたいと考えている。また、高校卒業後の進路についても、地元の大学等と連携し将来の地元就職に結び付けて行きたい。できれば令和5年度は、こうした考え方に賛同していただける学校と連携した取り組みを行っていきたい。

・交通インフラ及び都市基盤整備

萩石見空港については、本年秋以降も2往復運航が続くよう利用拡大に取り組んでいきたい。大阪便についても、運航期間の拡大に向け取り組んでいきたい。

高速道路については、三隅益田道路の工事が進み、令和7年度に全線開通する見込みである。益田西道路、益田田万川道路についても事業化され工事が行われることとなっており、早期の事業進捗に向けて取り組んでいきたい。

もう一つとして、中心部の久城から高津までの間の益田道路は、本来は高架道路や橋として繋

がる予定であり、この区間は高津川と益田川の浸水想定区域にもなっているため、災害の安全度を高めるためにも重点的に国へ要望している。

また、JR山陰本線の収支状況が非常に厳しい状況であることが報道発表された。今一度、市民の皆様にも鉄道の重要性を認識していただき、利用拡大を進めていく事も必要であると考えている。

空港は、開港30周年、鉄道でも、益田駅が開業100周年という大きな節目の年でもあるので、もう一度、こういった交通基盤の重要性を訴えていきたい。

都市基盤整備としては、未整備である益田川左岸南部地区の土地区画整理事業を地元と協力し進めていく事としている。

・ワクチン接種

ワクチンについては、現在4回目あるいは5回目を接種されておられるかと思う。5月8日から感染症法の位置づけが2類から5類へ移行するが、今後ワクチン接種がどうなるかは示されていないが、必要となれば速やかに環境の整備に努めていきたい。

2. 市制施行70周年

昭和27年に、当時の町、村が合併して益田市が誕生し、昨年が70周年の年であった。記念式典を11月3日にふれあいホールみとで行い、市の発展に貢献いただいた方々への感謝の気持ちを表すとともに、今後さらなる発展に向けて、市民の皆様全員で気運を高めていこうという趣旨で行ったところである。これからも市民の皆様と一緒に、さらなる発展を目指していきたい。

本日は、完成して間もない地域活性化交流館で開催させていただいた。当施設は、小学校と公民館、また3月以降には診療所、保育所等、地域の拠点が1つの施設で行われ、そういった取り組みは、全国的にも先進事例である。今後の活用についても、地域自治組織や、連合自治会等地域の住民の皆様方との連携により進めていきたいと考えているので、引き続きご協力をお願いする。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 市道の管理について
- ② 地域福祉について
- ③ 旧公民館の利用について
- ④ 市道改良工事について
- ⑤ 校区外通学について
- ⑥ 砂防ダムの管理について

○ 閉会（秘書課長）

令和4年度「市長と語り合う会」

〔会場 真砂公民館 開催日時：令和5年2月20日（月）19:00～20:00〕

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 市道の管理について 全ての路線とまでは言わないが、幹線的な道路については、年次計画を立ててもらい、特に路面の補強や側溝の管理を計画的に行ってほしい。</p>	<p>① 改良が必要な個所が多々あることは認識している。毎年、優先順位の高い所から整備しているが、いろいろな要望にお応え出来ない状況である。何とか予算を確保し必要性の高い所から進めていきたい。</p>
<p>② 地域福祉について 次年度より第4期の地域福祉計画に入るが、この地域活性化交流館を地域福祉の拠点とし、誰もが安心して過ごせる共生社会を目指していきたいと思っている。福祉計画にある地域包括ケアシステムの中の住民主体に関して、全て住民がやるのではなく、立案、計画は、行政や関係機関が入り、地域住民が主体となって支援する仕組みを作っていく事が大事ではないか。</p>	<p>② 地域包括ケアシステムの構築が大きな目標となっているが、病院、福祉施設等様々な地域資源を活かし、地域での方の力をお借りして、住み慣れた地域で完結できるような仕組みを整えていく事で、安心して暮らせる環境ができるものと考えている。行政においてもいろいろな福祉の部署があるが、部局内の連携も必要であるし、行政と関係機関や民間、住民の方々等との連携も重要となってくる。そういった視点で、高齢化、人口減少が進んだ地域でも安心して暮らしていただけるよう取り組んでいきたい。</p>
<p>③ 旧公民館の利用について 高齢者等のお弁当サービス、配食サービス等行っているが、当施設の調理室は、広さや設備が不十分で活動できるような調理室ではないので、今後も、旧公民館の調理室を今までどおり活用させてもらいたい。建てる際に、販売もできるように要望していたが、これから先困る。それなら今までの公民館を利用し今までどおりの活動をさせてほしい。学校との兼ね合いもあり時間調整も困難である。 これまでの活動は、高齢者に対する活動の基本で、地域活性化の源なので、滞ることのないよう配慮いただきたい。</p>	<p>③ この施設を建設する際には、地元の皆様の意見を十分にお聞きし、取り入れたつもりだったが、話をお聞きし残念である。基本的には新しい施設を建設した場合は、旧施設は、廃止、解体することになっているが、4月以降の取り扱いについては、内部で協議をしたい。</p>
<p>④ 市道改良工事について 現在、下波田馬谷線の舗装改築工事をしていただいていることに大変喜んでいる。もう一つの長年の願いである久々茂柿原線の改良工事も早期の工事完了をお願いしたい。</p>	<p>④ 下波田馬谷線、久々茂柿原線については、以前から要望をいただいております、少しずつ工事を行っているが、引き続き対応していきたいと思う。</p>
<p>⑤ 校区外通学について これだけ立派な施設ができたので、市内の子供たちの中で校区の学校に通学するのが困難な子供等が、真砂小学校へ入りたいというような情報はないか。</p>	<p>⑤ この度、真砂小学校が新築され、児童の受け入れられる人数も余裕はある。住居地と違う校区への通学については、基本的には、居住地の校区に指定される事になっているが、事情によっては、校区外への通学が可能ではある。</p>
<p>⑥ 砂防ダムの管理について 砂防ダムについて、誰も管理する者がいない。家の周辺は自分たちで草を刈っているが、どうなっているのか。</p>	<p>⑥ 砂防の管理については、島根県になるので、こちらからご意見があった旨をお伝えする。</p>

